

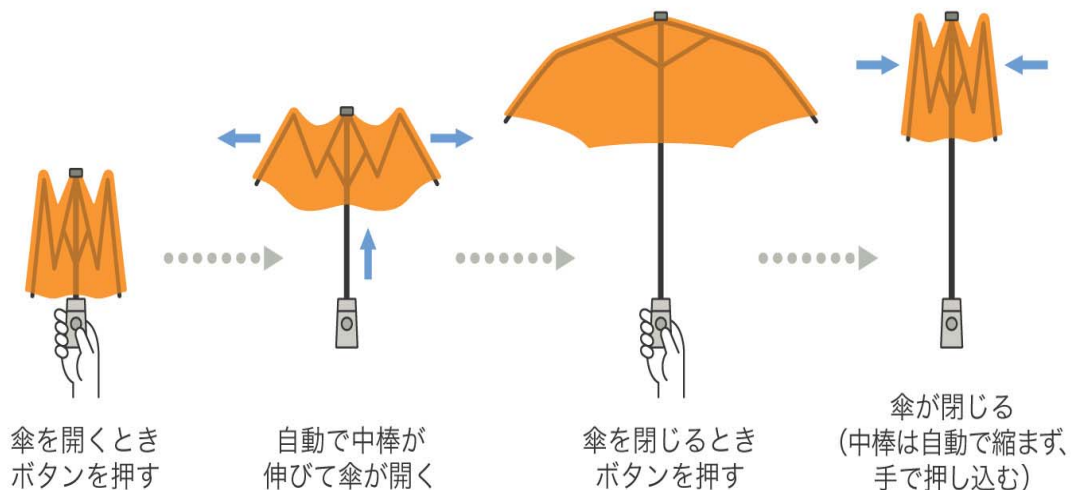
ジャンプ式や自動開閉式折りたたみ傘の事故 —重い後遺症が残るケースも—

2008年5月8日

独立行政法人国民生活センター

折りたたみ傘には、手の力で開閉するもの（手開き式）と、ボタンを押すと自動的に開くもの（以下、「ジャンプ式」）がある。また、ジャンプ式のなかには、閉じるときも自動で折りたたまれるものがある（以下、「自動開閉式」。下記イラスト参照）。

ジャンプ式も自動開閉式も利便性の高い商品と思われるが、PIO-NET⁽¹⁾に事故が寄せられており、なかには重い後遺症が残るケースも見受けられる。そこで、事故の未然防止・拡大防止のため、消費者への注意喚起を図るとともに、業界への要望を行う。



自動開閉式 イメージイラスト

(注1) PIO-NET（全国消費生活情報ネットワーク・システム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センターをオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。

1. 事故の概要

(1) ジャンプ式の事故

【事例1】

朝、出勤する際にジャンプ式を使用した。会社で広げて干していた。昼ごろ、畳んで傘袋に収納しようとしたところ、急に柄（手元）が飛び出してきた。額を切り、すぐに病院に行った。こぶができ、黒ずんでいて後遺症が残るかもしれないとのことだった。その後、頭痛がするので精密検査を受けることになった。メーカーの日本代理店は商品代金を返金し、治療費を払うと言っている。

(メーカー：コーチ・ジャパン株式会社)

(事故発生年月：2005年10月、受傷者：39歳 女性、兵庫県)

【事例2】

娘がブランド品のジャンプ式をデパート内の直営店で購入した。ほとんど使用していなかったが、昨日、使用後に傘袋に収納しようとしたところ、誤ってボタンを押したらしく、傘の柄（手元）が勢いよく飛び出し、唇を切り、前歯にひびが入った。歯科医院で治療を受けているが、前歯が変色する場合もあると言われた。収納時の注意書きはなかった。

(メーカー：コーチ・ジャパン株式会社)

(事故発生年月：2004年2月、受傷者：25歳 女性、北海道)

(*) コーチ・ジャパン株式会社にヒアリングしたところ、現在は事故同型品は販売していないとのこと。

(2) 自動開閉式の事故

【事例3】

自動開閉式を閉じて畳み、傘袋に入れるため持ち替えようとした時に、突然柄（手元）の部分が伸びてきて左眼を直撃した。その直後から左眼に白いもやがかかり、痛みがあった。

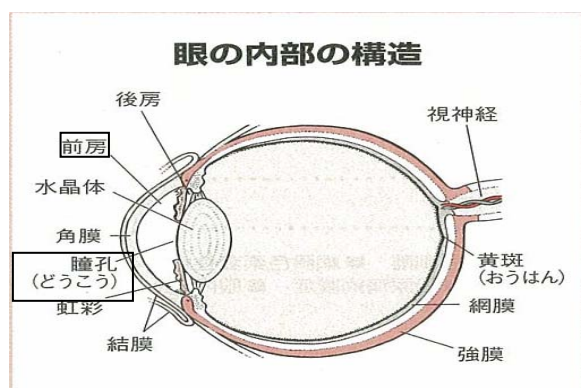
眼科医の診察を受けたところ、左眼前房⁽²⁾出血を起こしていると言われた。1ヵ月程通院し出血は治ったが、事故で瞳孔⁽²⁾括約筋が切れたため、瞳孔が開いたまま閉じない散瞳⁽³⁾と診断され、一生治らないと言われた。部屋の明かりなど、通常であれば異常を感じない明かりであってもまぶしく、日常生活が非常に辛い。

同様の事故が起きるのではないかと思い、消費生活センターに連絡した。

(メーカー：ムーンバット株式会社)

(事故発生年月：2007年6月、受傷者：41歳 女性、大阪府)

(注2) 眼の内部の構造 (メルクマニュアル医学百科最新家庭版より抜粋)



(注3) 眼球の打撲等により瞳孔括約筋が麻痺し、瞳孔が散大する (ステッドマン医学大事典より一部抜粋して加筆)。

【事例4】

大型スーパーの傘売り場で、自動開閉式を試しに広げ、閉じようとしたところ、ばねが予想以上に強く、跳ね返った傘の柄 (手元) があたり眉間を裂傷した。大量の血が出たので店員が救急車を呼んで病院にかかった。傷は1週間程度で治るようだが、顔の中心であり、傷痕が心配である。

(メーカー：ムーンバット株式会社)

(事故発生年月：2007年9月、受傷者：41歳 女性、埼玉県)

(*) 【事例3】【事例4】は同型の商品。

【事例5】

小学校3年生の生徒が下校時、友達に自動開閉式を見せようとして開いたところ、距離が取れず、思った以上に柄 (手元) が伸びたため、目の炎症と鼻に切り傷を負った。最近、このような傘を使用する生徒が増え、今後注意が必要か検討中。同種の事故があれば教えてほしい。

(メーカー：不明)

(事故発生年月：2003年6月、受傷者：9歳 男児、千葉県)

2. 検証試験の結果⁽⁴⁾

(1) 柄 (手元) の衝撃について

中棒を押し込む際、手を離してしまったり、開閉ボタンに触れてしまった場合等に、中棒が勢いよく飛び出してしまう、柄 (手元) が顔などにぶつかることがある。このときの衝撃がどの程度かを調べるため、事故同型品 (【事例3】【事例4】) 及び事故同型品と同じ

自動開閉式 2 銘柄、合計 3 銘柄について検証試験を行った。

柄（手元）から垂直方向下の 10cm 離れた位置に空のアルミ缶を設置し（写真 1）、中棒が伸びて柄（手元）が勢いよくアルミ缶に当たってできた凹みの程度を調べたところ、3 銘柄とも衝撃でアルミ缶が大きく変形した。なお、銘柄間で凹み具合に大きな違いは見られなかった（写真 2、写真 3、写真 4）。

写真 1. 検証試験の様子

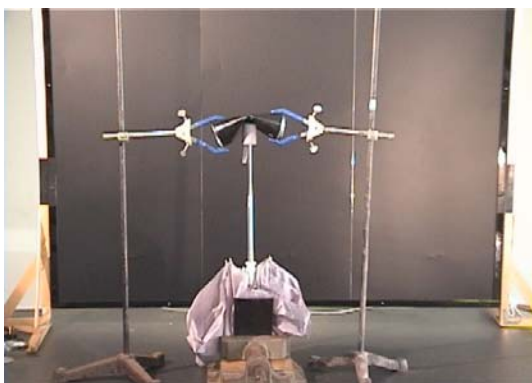


写真 2. 事故同型品の柄（手元）が当たってできた凹み



写真 3. 参考品 1 の柄（手元）が当たってできた凹み



写真 4. 参考品 2 の柄（手元）が当たってできた凹み



（2）注意表示について

自動開閉式の使用上の注意表示がどのようになっているか、（1）と同じ 3 銘柄について比較したところ、いずれも使用上の注意に関する表示はあったが、その内容や文字の大きさにばらつきがあった。

事故同型品（【事例 3】【事例 4】）は、操作を誤ると怪我をする可能性が複数の箇所に記載されており、文字も最も大きかった。参考品 1 は、子どもの使用時には保護者が注意すること等は表示されているものの、怪我をする可能性は明記されておらず、文字は最小だった。また、参考品 2 は、開閉時に指を挟まないよう注意を促す記載が見受けられた。

（注 4）検証試験は、参考品も含めすべて自動開閉式で行った。

3. 事業者等への要望

(1) 事業者への要望

重い後遺症が残る事故も発生しているので、メーカーはジャンプ式や自動開閉式折りたたみ傘の安全面について検討すること。また、メーカーと協力し販売業者等は、使用上の注意点が容易に分かるよう表示を工夫すること。

(2) 業界への要望

①日本洋傘振興協議会⁽⁵⁾

洋傘の品質基準である「JUPA（ジュパ）基準」に、ジャンプ式や自動開閉式折りたたみ傘の安全性に関する規定を盛り込むこと。

②日本チェーンストア協会、日本百貨店協会

メーカーと協力し、使用上の注意点が容易に分かるよう表示を工夫すること。

(注5) 日本洋傘振興協議会（Japan Umbrella Promotion Association = JUPA）とは、全国の洋傘製造業者有志により 1963 年 3 月に設立された団体。同協議会では独自に JUPA（ジュパ）基準を設定し、会員の洋傘の品質・信頼・安心の証として、JUPA マークを添付している。

4. 消費者へのアドバイス

ジャンプ式や自動開閉式の事故の多くは、傘を閉じる際や傘袋に収納する際に発生している。中棒を押し込む力が足りずきちんとロックされていない場合や、傘を閉じる際に開閉ボタンに触れてしまった場合などに中棒が勢いよく飛び出してしまう、柄（手元）が顔などにぶつかることがあるため、十分注意すること。また、顔の近くで操作しないこと。

[要望先]・日本洋傘振興協議会

- ・日本チェーンストア協会
- ・日本百貨店協会

[情報提供先]・経済産業省商務情報政策局製品安全課

- ・内閣府国民生活局総務課国民生活情報室

<title>ジャンプ式や自動開閉式折りたたみ傘の事故－重い後遺症が残るケースも－</title>